

小説◎火刑

エッセイ◎人生色々

星 浩二

青山ライフ出版

## 目次

### 小説・火刑

プロローグ	8
恐喝事件	11
後遺症	22
旅立ち	24
初体験	27
幸せ家族	33
裏切り	35
解散	42

追い打ち	47
情報収集	50
就職	54
戦略	60
計画書	62
挿話	66
決行	72
悲しい別れ	81
エンディングノート	83
ダブル・ハネムーン	86
エピソード	87
死の言葉 (室見川崇が三途の川を渡ってから)	89

## エッセイ・人生色々

- 一、今に見ている！ 僕だつて！…………… 97
- 二、決断力と行動力が強い男…………… 109
- 三、聖人君子…………… 116
- 四、薄幸な女？…………… 120
- 五、交通事故…………… 126
- あとがき…………… 132





小説  
火刑

プロローグ

小学校四年で九歳の女の子が、大きな男に組み敷かれている。

女の子は、手足をバタつかせて抵抗を続けているが、身体を押し付けている男の抑える力に勝てそうにない。

男が、一瞬力を弱めたとき突然、女の子が、「イエーイ！」と声を張り上げ、膝で、男の股間辺りを蹴り上げた。

膝は、見事！ 男の急所を捉えた。

男は、「ぎゃあー」と言つて、もんどりうつて、少女の上から倒れた。

女の子は、すぐ立ち上がり、

「まいったか！」と言つて、男の上に跨った。

男は、

「まいった。まいりました。イテエー」と、大仰に、腰を海老のように曲げたり、ひねったりし



ている。

女の子は、男から身体を離し、

「パパ！ 大丈夫！ ちょっと待っててね」と言って、奥の部屋に行き、濡らした手拭いを持ってきて男に手渡し、

「ごめんさい。大丈夫？ これで冷やして……」と。

パパと呼ばれた男は、タオルを受け取って、

「寿美礼！ ルール違反だぞ！ 男の急所を蹴るとは……禁じ手だ！ 試合では絶対使ってはいけないぞ！」

「分かりました。苦しかったので、つい、身を護るために、夢中で蹴りました。これからは注意します」

「どこでこんな手を覚えたのだ？ 暴漢など悪い男に襲われたときは、何でも、どんな手を使っても、いいけど、決められたルールの中では、ルール違反で負けてしまうから、禁じ手は使ったらだめだ」

「聡美ちゃんに習ったの。学校に行く途中で話していたら、テレビで観ただって、女が襲われるシーンで、女が、男の股座またぐらを蹴り上げ、男が蹲うつすまったところを走って逃げて、助かったというのを。

それで、一緒に見ていたお父さんが、男に襲われたら、男の急所を蹴るといって、言ったんだって」

「そうか、聡美ちゃんがね。護身術の一つだね」

「護身術って？ どういう意味？」

「相手から襲われたりして、攻撃や危害を受けたりしたとき、自分の身を護るための技術わざのこと。さつき、寿美礼が、お父さんの急所を蹴ったことがそれにあたる技術だ。あくまでも、自分の身を護るためにやるのであって、自分から仕掛けてはいけけないのだよ」

「分かったわ。これからは気を付けます」

「将来は、ヤワラちゃんと呼ばれた、田村亮子さんのようにオリンピックに出て金メダルを取るのが夢なんだろ。是非、頑張つてね。五年生になると福岡県の大会に出て優勝しないとね。パパは、高校時代に福岡大会で準優勝だったので、寿美礼には優勝をして欲しいからね」

「優勝できるよう頑張ります。しっかり、パパに厳しく教えてもらってね……」

## 恐喝事件

寿美礼の父親は、室見川<sup>むろみがわ</sup>崇<sup>たかし</sup>と言ひ、職業は、地方公務員で福岡県庁に勤務している。崇は、自宅から歩いて二十分ほどのところにある前原<sup>まえはら</sup>小学校に入学し、その後、やはり徒歩で三十分ほどのところにある前原<sup>まえはら</sup>中学校に進み、高校もほぼ同じ距離にある地元の伊都<sup>いと</sup>高校に進んだ。その後、東京にある大学に進んだ。

大学でも、柔道で活躍した。

寿美礼は、前原小学校に上がる前から、テレビでオリンピックの柔道大会を観て、自分もあんな事をやりたいと言いだした。

父親に、柔道を教えてくれるように頼んで、稽古をつけてもらった。

父親は、柔道の本を読んで聞かせて、基本から厳しく、教え込んだ。

寿美礼は、父と同じ糸島市の前原<sup>まえはら</sup>町で生まれた。

前原町は、一時、前原市になるが、その後、志摩町、二丈町と合併し、糸島市となった。寿美

礼の家族は、父・崇と母・美智子、そして、二つ下の長男・颯一そらいちの四大家族である。

颯一は、父と違って、柔道より野球が好きで、近くの少年野球クラブに入って、野球漬けであった。

名前の通り、颯爽としていて、すばしっこい動きで、クラブで一番の盗塁王であった。

寿美礼の家の数軒先に、同級生の吉村聡美が住んでいた。

寿美礼と聡美は、同じ年に生まれて、小学校に上がる前から竹馬の友で、いつも二人は仲よく遊んでいた。小学校から高校まで同じ学校に通った。

二人は仲が良かったが、趣味が異なった。寿美礼は柔道を、聡美は剣道を愛した。これは父の影響であった。寿美礼の父は柔道を、聡美の父は、剣道が好きで、励んだ。

聡美の父・吉村よしむら豪男たけおは、高校時代に剣道で国体に出たほどの腕前をもつ人物であった。

高校卒業時に福岡県警や、有名企業などからスカウトを受けたが、一人息子であったため、家業の農家を継ぐため、きっぱり、剣道はあきらめて、農業に従事した。

豪男の父が交通事故に遭い、足腰を痛め、農業ができなくなったため、家業を継ぐこととなったのである。母親と一緒に農業の仕事に励んだ。

その後、父親を亡くし母親も亡くなった。